

- 2 - 1 単元「でっかくそだてサツマイモ おいしくたべよう サツマイモ」(一色町立一色西部小学校 第1学年)

1 単元指導計画

1 - 1 単元名 「でっかくそだてサツマイモ おいしくたべようサツマイモ」(全34時間)
担当者 高須清美

1 - 2 単元設定の理由

(1) 子どもの実態

入学して間もなく、「学校は木登りできる木が2本あったよ。」「放課に登りに行こうよ。」「花壇にきれいな花がたくさん咲いていて、きれいだね。」「押し花を作ろうよ。それに、色水を作って絵を描こう。」「うさぎがいっぱいいるよ。だっこしたいな。」と、子どもたちは学校のすてきな場所を見つけ、夢をふくらませた。放課になると、「6年生のお兄さんといっしょに木登りするんだ。おんぶしてくれる約束なんだよ。」「わたしね、6年生のお姉さんにおいしい蜜がある花を教えてもらったよ。」と、うれしそうに話してくれる。

子どもたちは、自分が見つけたすてきな場所や、友だちや上級生と遊ぶなかで、うさぎの世話をしてくれる上級生がいることや、大切に世話をするから花がきれいに咲いているということに気付いた。

そこで、自分たちも花を育てようと、一人一鉢アサガオを育て始めた。種まきする時、なかなか土にふれなかったA子も、「この土は、ふわふわで気持ちいいねえ。」というB男の楽しそうなつぶやきから、だんだん抵抗なく土に親しむことができるようになった。そして、太陽の光がよく当たる場所を考えたり、水をやったりして、アサガオの育て方を調べながら世話をした。「たった一晩でぼくの指くらい蔓が伸びたよ。人間よりも速いスピードで大きくなるんだね。」(C男)と、成長に気付いたり「今日は花が11個も咲いたよ。」(D子)と、登校するとすぐうれしそうに観察を始め、もっとたくさん花を咲かせようと自分の植物を育てることに意欲的に取り組んできた。

また、「2年生がトマトを育てているよ。いいな。」(E男)とか、「私たちも何か食べられる物を育てようよ。」(F男、G子)と、自分たちも野菜を育て、収穫して食べたいという願いをもった。保育園や幼稚園では植物の栽培や、収穫した物を料理して食べた経験はない。サツマイモ畑は校区に多く見られるが、それをサツマイモが栽培されていると知っている子は半数に満たない。また、家でサツマイモを栽培していても、育て方を知っている子はいない。食べることについては、全員さつまいもは好きで、焼きいも、ふかしいも、大学いも、いもけんぴなどいろいろな食べ方を知っている。こうした子どもたちは、自分たちで栽培し、調理して食べた経験はないため、希望に胸ふくらませ、目を輝かせている。

(2) 教師の願い

子どもたちの願いを生かし、野菜の栽培活動に取り組むことにする。時期や好みを考えて何を育てるか話し合うことから始める。

子どもたちは、いろいろな野菜に興味や関心をもち、家の人や本などで育て方を調べるだろう。そして、たくさんの野菜の中から比較的育て方が容易で、食べ方のバリエーションもたくさんあるサツマイモを育てることにする。サツマイモを栽培する活動のなかで、栽培に詳しい町の先生に来ていただいて、いもぐらの作り方や苗のさし方や世話の仕方を畑で実際に学びながら、地域の人と親しみをもって適切にかかわってほしい。人や社会とのかかわり(3)

また、子どもたちに自分たちのサツマイモという意識をもたせるため、一人1本ずつ苗さしすることにしたり、班に1袋のサツマイモも栽培したりする。子どもたちは世話をしていくなかで、蔓が伸びたり葉が増えたりして、成長していることに気付くだろう。また、土の中にかくれていて変化がよくわからない根の様子も観察しように関心をもって学習を進めていくだろう。葉や茎や根の変化に目を向けて観察させ、記録をもとに成長を実感させたい。そして、その成長の様子を自分なりの表現方法でみんなに伝えることができる表現力を育てたい。自然とのかかわり(7)

10月には収穫を迎える。大切に育ててきたサツマイモがたくさん収穫できたことの達成感を味わわせたい。そして、収穫したサツマイモをみんなで一緒に味わいたいという意識をもたせたい。そのあとで、校庭の落ち葉や小枝などの燃料をたくさん集めて焼きいもをすることで、季節を感じたり、自然の中でみんなと協力して活動したりすることのよさも味わわせたい。さらに、家族や町の先生の協力を得て、みんなで作るサツマイモ料理を考える場面を設定したい。ここでは、自分の考えだけでなく、友だちの考えや家の人、町の先生の考えを取り入れて思考する力を伸ばしたい。そうして考えたアイデア料理を調理し、試食して、みんなで作って食べる喜びを味わわせたい。また、サツマイモの蔓を利用して、遊びを考えたり、秋の自然物を使った飾りを作ったりして楽しませたい。

さらに、12月に行われる一西小「食のフェスティバル」では、子どもたちがサツマイモを育てたり、調理したりする活動を通して学んだことや、サツマイモのアイデア料理を発表し、家族や地域の人たちに発信する場としたい。最後に、これまでの学習活動をふり返り、学んだことを生かして「サツマイモ新聞」にまとめ、これも地域の人たちに発信させたい。ここでは、わかったことをわかりやすく相手に伝える表現力を育てたい。そして、植物を育て、収穫して食べる喜びを味わわせることから、今後も植物を大切にすることができるようになってほしいと願う。人や社会とのかかわり(3)・自然とのかかわり(7)

1 - 3 単元の目標

地域の人とかかわりながらサツマイモを育て、調理することを通して、地域の人との適切な接し方や、植物の成長に関心をもつとともに、植物も生命をもって成長していることに気づき、植物を大切にすることができるようにする。

1 - 4 単元の評価規準

関心・意欲・態度

進んでサツマイモを育てたり、調理したり、発表したりしようとする。

サツマイモへの親しみをもち、大切にしようとする。

思考・表現

自分で調べたり、友だちや家族や地域の人から学んだりしながら、サツマイモを大きく育

てたり、イモや蔓で遊んだり、おいしく調理したりする方法を考えることができる。
他の植物（アサガオやオクラ）とサツマイモとの育て方や世話の仕方の違いを調べることができる。

サツマイモを育てたり、調理したことから分かったことや考えたことを、絵や表を使って友だちや、家族・地域の人に伝えることができる。

気付き

サツマイモの成長に気付く。

自分たちで考えたり工夫したりして活動することの楽しさに気付く。

1 - 5 学習過程と評価計画

学 習 活 動	支 援 (方法・内容)	評 価 規 準			評 価 資 料
		関 心 意 欲 態 度	思 考 表 現	気 付 き	
1 みんなでサツマイモを育てる。(5時間) 食べられる野菜について知っていることを話し合う。	・サツマイモを育てようとする関心・意欲をもたせるために、調べた野菜の好みにも目を向けさせる。				学習カード1
サツマイモを育てたらどうするか、自分の考えを発表する。	・自分の気付きを進んで発表させるために、聞き取りや本・資料を用意させる。				行動観察1
サツマイモを育てたらどうするかを決める。	・調理して食べることのほかにも工作したり、蔓で遊んだりできることも知らせるために写真や本を提示する。				学習カード2
2 サツマイモの世話を する。(7時間) サツマイモの苗さしの準備をし、苗さしをする。	・畝作りや、苗のさし方を町の先生に助言していただく。				行動観察2
サツマイモが大きく育つための世話の仕方を調べ、発表する。	・世話の仕方について進んで発表できるように、調べたことや聞き取りしたことを褒める。				学習カード3
育てているアサガオや、オクラの育て方や世話の仕方を調べる。	・サツマイモ以外の植物は、サツマイモの育て方と比べて違うことを見つけさせるために、肥料と水やりの2つの視点で比較できるような学習カードを用意する。				学習カード4
サツマイモの成長の様子を発表する。	・サツマイモの成長に気付かせるために、今までの観察記録と比較するよう助言する。				学習カード5
サツマイモを収穫し自然に親しむ。	・サツマイモを大切に育てるために、イモの掘り方を町の先生に助言していただく。				行動観察3
3 サツマイモや蔓を使					

<p>った遊びで楽しむ。 (7 時間) サツマイモの蔓でできる遊びを考えて遊ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然物に親しませるため蔓を手にし、自由に考えさせ、みんなで楽しく遊ぶ場を設定する。 	<p>行動観察 4</p>
<p>サツマイモの蔓や秋の自然物を使った飾りを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・秋を感じさせるために、春の写真を提示したり、落ち葉や木の実などを見つける場を設定する。 	<p>学習カード 6</p>
<p>サツマイモの蔓や秋の自然物を使って、飾りを作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の自然を楽しませるため、サツマイモの蔓や秋の自然物などを使って自由にかざりを作る場を設定する。 	<p>行動観察 5</p>
<p>4 みんなでサツマイモを調理して食べる。 (10 時間) サツマイモの食べ方を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サツマイモをどのようにして食べるかについて、関心をもたせるために、料理について聞き取りや調べたことを褒める。 	<p>学習カード 7</p>
<p>焼きいもを作り、味わう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで活動することを楽しませるため、みんなで落ち葉や小枝などの燃料を校庭でたくさん集める時間を設ける。 	<p>学習カード 8</p>
<p>お母さんに喜んでもらえるサツマイモのアイデア料理を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サツマイモのアイデア料理を工夫させるために、町の先生やお母さんを招き、話を聞く場を設定する。 	<p>学習カード 9</p>
<p>アイデアサツマイモ料理の準備をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調理に必要な用具や材料を準備させるために、それぞれの名前や使い方を知らせる。 	<p>学習カード 10</p>
<p>アイデアサツマイモ料理を作り、試食する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に気をつけて調理させるために、町の先生に来ていただき、包丁やガスコンロなどの調理器具の使い方を指導していただく。 	<p>行動観察 6</p>
<p>5 食のフェスティバルでサツマイモについて、みんなに知らせる。(4 時間) フェスティバルの発表計画を立てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食のフェスティバルで発表する内容を考えさせるために、今までの学習の歩みを用意する。 	<p>学習カード 11</p>
<p>フェスティバルで発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことや活動したことをわかりやすく発表させるために、絵や図を使って発表するよう助言する。 	<p>行動観察 7</p>
<p>6 これまでの活動を振り返り、学習のまとめをする。(2 時間) 今までの活動の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの活動を振り返らせるために、育てること、料理づくり、遊び、食のフェスティバルへの参加の観点を示し、話し合わせる。 	<p>学習カード 12</p>

サツマイモ新聞を作る。	・学習の歩みをまとめるために、サツマイモ新聞を作る場を設定する。				サツマイモ新聞1
-------------	----------------------------------	--	--	--	----------

1 - 6 ルーブリック

学 習 活 動	評 価 規 準	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評 価 基 準		
				A (3)	B (2)	C (1)
1 みんなでサツマイモを育てる。 食べられる野菜について知っていることを話し合う。	関心・意欲・態度	サツマイモに関心をもって育てようとする。	学 習 カ ー ド 1	サツマイモを含めて育てたい野菜の名前を10種類以上書いている。	サツマイモを含めて育てたい野菜の名前を5種類以上書いている。	サツマイモを書かないで育てたい野菜の名前を書いていない。
サツマイモを育てたらどうするか、自分の考えを発表する。	関心・意欲・態度	サツマイモをどうしたいか、自分の考えを発表しようとする。	行 動 観 察 1	進んで自分の考えを述べている。	自分の考えを指名されて述べている。	話し合いの様子を聞いている。
サツマイモを育てたらどうするか決める。	思考・表現	サツマイモをどうするかみんなのできることを決めることができる。	学 習 カ ー ド 2	みんなのできることを、理由をつけて書いている。	みんなのできることを書いている。	自分がしたいことのみを書いている。
2 サツマイモの世話をする。 サツマイモの苗さしの準備をし、苗さしをする。	関心・意欲・態度	サツマイモの苗さしをしようとする。	行 動 観 察 2	みんなをリードしてサツマイモの苗さしをしている。	サツマイモの苗さしをみんなといっしょにしている。	サツマイモの苗さしを助言をもとにしている。
サツマイモが大きく育つための世話の仕方を調べ、発表する。	関心・意欲・態度	サツマイモの育て方について一人調べをしようとする。	学 習 カ ー ド 3	サツマイモを育てる上で必要なことを日光・肥料・水やり・草取りのうち3つ以上書いている。	サツマイモを育てる上で必要なことを日光・肥料・水やり・草取りのうち2つ書いている。	サツマイモを育てるうえで必要なことを日光・肥料・水やり・草取りのうち1つ書いている。
育てているアサガオやオクラの育て方や世話の仕方を調べる。	思考・表現	他の植物（アサガオやオクラ）とサツマイモとの育て方や世話の仕方の違いを調べることができる。	学 習 カ ー ド 4	アサガオやオクラと、サツマイモの育て方や世話の仕方の違いを肥料と水やりの2つの視点で書いている。	アサガオやオクラと、サツマイモの育て方や世話の仕方の違いを肥料と水やりのうち1つの視点で書いている。	アサガオやオクラの育て方や世話の仕方のみを書いている。
サツマイモの成長の様子を発表する。	気付き	サツマイモの成長に気付く。	学 習 カ ー ド 5	サツマイモが成長していることを、葉・蔓・根の3つの視点で書いている。	サツマイモが成長していることを、葉・蔓・根のうち2つの視点で書いている。	サツマイモが成長していることを、葉・蔓・根のうち1つの視点で書いている。
サツマイモを収穫し、自然に親しむ。	関心・意欲・態度	サツマイモを収穫しようとする。	行 動 観 察 3	サツマイモを傷つけないように大切に収穫している。	サツマイモを収穫している。	サツマイモの収穫の様子を見ている。
3 サツマイモや蔓を使った遊びで楽しむ。 サツマイモの蔓	気付き	サツマイモの蔓で楽しく遊ぶことができる。	行 動 観 察 4	サツマイモの蔓でみんなと楽しく遊んでいる。	サツマイモの蔓で遊んでいる。	サツマイモの蔓を使わずに遊んでいる。

でできる遊びを考えて遊ぶ。						
サツマイモの蔓や、秋の自然物を使った飾りを考える。	思考・表現	サツマイモの蔓や秋の自然物を使った飾りを考えることができる。	学習カード6	サツマイモの蔓や松かさ・ドングリ・木の葉などの秋の自然物を3種類以上を使って、どのような飾りを作るか書いている。	サツマイモの蔓や松かさ・ドングリ・木の葉などの秋の自然物を2種類以上を使って、どのような飾りを作るか書いている。	サツマイモの蔓や松かさ・ドングリ・木の葉などの秋の自然物を1種類使って、どのような飾りを作るか書いている。
サツマイモの蔓や、秋の自然物を使って、飾りを作る。	思考・表現	サツマイモの蔓や集めた秋の自然物を使って飾りを作ることができる。	行動観察5	サツマイモの蔓や、松かさ・ドングリ・木の葉などの秋の自然物を3種類以上使って飾りを作っている。	サツマイモの蔓や、松かさ・ドングリ・木の葉などの秋の自然物を2種類使って飾りを作っている。	サツマイモの蔓や、松かさ・ドングリ・木の葉などの秋の自然物を1種類使って飾りを作っている。
4 みんなでサツマイモを調理して食べる。 サツマイモの食べ方を考える。	関心・意欲・態度	サツマイモの食べ方を考えようとする。	学習カード7	サツマイモ料理について、焼きいも・おにまんじゅう・茶巾しぼりなど、3つ以上書いている。	サツマイモ料理について、焼きいも・おにまんじゅう・茶巾しぼりなどのうち、2つ書いている。	サツマイモ料理について、焼きいも・おにまんじゅう・茶巾しぼりなどのうち、1つ書いている。
焼きいもを作り、味わう。	気付き	みんなで焼きいもを作る楽しさに気付く。	学習カード8	楽しく焼きいもができた理由を、みんなで協力したこと・おいしく焼けたことなど2つ以上書いている。	楽しく焼きいもができた理由を、みんなで協力したこと・おいしく焼けたことなどの中から1つ書いている。	楽しく焼きいもができたことのみを書いている。
お母さんに喜んでもらえるサツマイモのアイデア料理を考える。	思考表現	お母さんに喜んでもらえるようにサツマイモのアイデア料理を工夫することができる。	学習カード9	お母さんに喜んでもらえるようなサツマイモ料理の工夫を、味・入れるもの・形などの視点で2つ以上書いている。	お母さんに喜んでもらえるようなサツマイモ料理の工夫を、味・入れるもの・形などの視点で1つ書いている。	お母さんに喜んでもらえるサツマイモ料理を書いている。
アイデアサツマイモ料理の準備する。	思考表現	アイデアサツマイモ料理の材料を考えることができる。	学習カード10	サツマイモ料理の材料や分量や手順を書いている。	サツマイモ料理の材料や分量や手順のうち2つを書いている。	サツマイモ料理の材料が分量か手順のいずれかを書いている。
アイデアサツマイモ料理を作り、試食する。	気付き	アイデアサツマイモ料理を包丁やコンロの安全な使い方気をつけて作るうとする。	行動観察6	サツマイモ料理を手順に従って班の子と協力して、安全に作っている。	サツマイモ料理を先生の助言をもとに安全に気をつけて作っている。	サツマイモ料理を先生の助言をもとに作っている。
5 食のフェスティバルでサツマイモについてみんなに知らせる。	思考表現	食のフェスティバルで発表する内容を考えることができる。	学習カード11	どんなことを発表したいか、栽培・遊びや飾り・料理の	どんなことを発表したいか、栽培・遊びや飾り・料理の	どんなことを発表したいか、栽培・遊びや飾り・料理の

フェスティバルの発表計画を立てる。				3つの視点で書いている。	うち2つの視点で書いている。	うち1つの視点で書いている。
フェスティバルで発表する。	思考表現	調べたことや活動を、上級生や地域の人にわかりやすく伝えることができる。	行動観察7	サツマイモ料理や絵を使って大きな声で表情豊かに発表している。	サツマイモ料理や絵を使って大きな声で発表している。	教師の助言をもとに活動している。
6 これまでの活動をふり返り、学習のまとめをする。今までの活動のふり返りをする。	気付き	これまでの学習のふり返りをするができる。	学習カード12	栽培・飾り作り・料理・フェスティバル参加の4観点すべてのふり返りを書いている。	栽培・飾り作り・料理・フェスティバル参加のうち2～3観点でふり返りを書いている。	栽培・飾り作り・料理・フェスティバル参加のどれかについて書いている。
サツマイモ新聞を作る。	思考表現	サツマイモ新聞を作ることができる。	サツマイモ新聞1	栽培・遊びや飾り作り・料理の3つすべてのことを書いている。	栽培・遊びや飾り作り・料理のうち2つのことをことを書いている。	栽培・遊びや飾り作り・料理のどれか1つについて書いている。

2 授業と評価の実践

2 - 1 指導と評価の一体化の実践

学習活動1 みんなでサツマイモを育てる。
食べられる野菜について知っていることを話し合う。

(1) 指導・学習の過程

子どもたちは、テラスでアサガオを大切に育てている。隣のテラスで2年生がトマトを育て始めたのを見て、自分たちも何か食べられるものを育て、収穫して食べたいという願いをもった。そこで、子どもたちが知っている野菜を出し合った。きゅうり、キャベツ、オクラ、トマト、なす、大根、ニンジンなど、たくさんの種類を知っていた。そのなかでサツマイモは、甘くておいしくて、みんなが好きだということから、栽培を始めることになった。

(2) 評価結果

育てたい野菜を、学習カード1に書かせて評価した。

評価の観点	学習活動における具体的な評価基準	評価基準		
		A(3)	B(2)	C(1)
関心・意欲・態度	サツマイモに関心をもって育てようとする。	22人	5人	0人

27人全員がサツマイモを育てたい野菜としてあげることができた。また、A評価のなかには、育てたい野菜を20種類以上あげた子が4人いた。

(3) 指導の改善と実施

知っている野菜を発表するなかで、いも類・葉菜類・根菜類・果菜類・花菜類など40種類があげられた。しかし、ミカンやレモンなどの野菜の仲間でないものをあげる子もいた。そこで、植物図鑑で野菜の仲間を確かめた。野菜のなかでも、みんなが好きなサツマイモを育てることになった。「てんぷらにして食べたいな。」「焼きいもがおいしいよ。」と言う子もいて、サツマイモを育てて食べようという意識が高まったと考えられる。そこで、次時はサツマイモを育てたらどうするかについて自分の考えを発表することにした。

学習活動1	サツマイモを育てたらどうするか、自分の考えを発表する。
-------	-----------------------------

(1) 指導・学習の過程

一人一人が目的意識をもってサツマイモの栽培ができるように、サツマイモを育てたらどうするか、考えを発表させた。イモを食べることだけでなく、蔓にも目を向けさせるため、サツマイモの本を見せてから発表させた。「焼きいもにしたい。」「天ぷらがいいな。」「おにまんじゅうや、いもけんぴを作って食べたい。」など、サツマイモを食べたいという意見が全員から出された。そして、「みんなでいろいろ作ろうよ。」という意見から、何を作るか、次時に決めることになった。また、本に描かれている伸びた蔓を見て、「長い蔓で何か作れるかもしれないね。蛇とか首飾りとかね。」と、遊びにも目を向けた。そして、長くなるように育ててから蔓の遊びを考えることにした。

(2) 評価結果

進んで話し合いに参加できたかを、行動観察1により評価した。

評価の 観 点	学習活動における 具体的な評価基準	評 価 基 準		
		A (3)	B (2)	C (1)
関心・意欲・ 態度	サツマイモをどうしたいか、 自分の考えを発表しようとする。	22人	5人	0人

前時からのサツマイモを育てて食べたいという意識が高まっていたため、全員が料理名をあげて発言することができた。また、遊びについて発言する子が6人いた。

(3) 指導の改善と実施

A評価の22人のうち9人は、積極的に挙手し発言したが、13人は、教師や友だちに挙手するよう促されて発言できた。この子たちやB評価の子には、発言できたことを褒め、自分が考えたことをみんなに伝えることががんばっていることだと助言した。また、B評価の子には、次時には挙手できるよう個別に考えを聞き、自信をもたせた。

学習活動1	サツマイモを育てたらどうするか決める。
-------	---------------------

(1) 指導・学習の過程

前時の発言の内容から、サツマイモを調理して食べることと、蔓を使った遊びについて

どうするかを話し合うことになっていた。調理については、みんなで協力してできるものを考えさせた。始めは、自分が食べたいものをあげていた子も、教師や家の人の手助けがなくても自分たちだけでできそうな焼きいもを作って食べたいと考えるようになった。また、蔓を使った遊びについては、遊び方が書いてある本を家から持ってきたのを見て、「わあ、楽しそう。やってみたい。」と目を輝かせたり、「お姉ちゃんがリースを作ってたよ。」「イモでスタンプができるよ。」と、いろいろな遊びができることに気付いた。どんなふうに遊ぶかは、本物の蔓ができてから決めることになった。

(2) 評価結果

サツマイモができたらどうするか、みんなでできることを決めることができたか、学習カード2に書かせて評価した。

評価の 観 点	学習活動における 具体的な評価基準	評 価 基 準		
		A (3)	B (2)	C (1)
思考・表現	サツマイモをどうするか、みんなでできることを決めることができる。	19人	7人	1人

A・B評価の子は全員焼きいもを作って食べたいと書いていた。そして、そのなかの9人はおにまんじゅうやオレンジ煮、茶巾しぼりなども書いている。C評価の子は、無記入だった。

(3) 指導の改善と実施

サツマイモができたらどうするかについて話し合うなかで、今までに調理の経験がない子がほとんどで、自分たちで作ることにうれしさと不安が交錯した。しかし、自分だけではできないけれど、みんなといっしょならできるだろうと、焼きいも大会をすることに決まった。C評価の子に授業後聞いてみると、「焼きいもは作ってみたいけど、できるかわからない。」と答えた。作り方がよくわからないことから決めきれずにいたことがわかり、帰りの会で話題にした。焼きいもの作り方が描いてある学級の本を友だちに見せてもらったり、「みんなで協力すればできるよ。できなかつたら助けてあげるよ。」と、友だちに励まされたりして、焼きいもを作ろうと決めることができた。また、学習カードには今の考えを書けばよいことを指導した。

学習活動2 サツマイモの世話をする。

サツマイモの苗さしの準備をし、苗さしをする。

(1) 指導・学習の過程

町の先生に、準備の仕方と苗のさし方を教えていただいた。初めて手にする鍬に戸惑いながらも真剣に土を寄せて畝を作ったり、班の子と協力してマルチシートを掛けたりして、一人1本の苗をさした。畝を作るときは、土の感触を楽しませるために鍬の他には道具を使わずに手で形を整えさせた。「土がふわふわで気持ちいいね。」と、歓声をあげたり、「苗を斜めにさすのはむずかしいよ。」と、畝に腕をつっこんで穴を掘ったり、「ふわふわベッ

ドの中で大きく育てね。」と優しく声をかける子もいた。このように、ほとんどの子が町の先生から教わったように、苗を斜めに寝かせてさすことができた。そして、自分がさした苗が早く大きくなってほしいと願って、ペットボトルのじょうろで水をたっぷりかけた。しかし、「土の中に虫がいるから怖い。」と、始めのうちはなかなか土にさわれなかった子もいた。友だちから「ミミズは、畑の土をふわふわにしてくれるいいやつなんだよ。」とか「いっしょにやろうよ。」と言われたことで、ゆっくり土をさわり始め、苗をさした。

(2) 評価結果

サツマイモの苗さしをみんなといっしょにできたかを、行動観察2により評価した。

評価の 観 点	学習活動における 具体的な評価基準	評 価 基 準		
		A (3)	B (2)	C (1)
関心・意欲・ 態度	サツマイモの苗さしをしようとする。	13人	10人	3人

土の感触を楽しみながら、町の先生や友だちと楽しく苗さしすることができた。C評価の3人は、土の中にイモムシやミミズがいるのを怖がり、なかなか土にさわることができなかった。

(3) 指導の改善と実施

土になかなかさわれなかったC評価の子には、畑にはミミズが必要なことや悪い虫ではないことを話し、恐怖心を和らげた。

学習活動2 サツマイモが大きく育つための世話の仕方を調べ、発表する。

(1) 指導・学習の過程

前時の苗さしの後で、「サツマイモは、いつ掘れるようになるのかな。」というつぶやきから、収穫の時期と、それまでの世話の仕方を調べることにした。子どもたちは、家族からの聞き取りや、本やインターネットで調べたことを発表した。そして、世話で必要なことを、日光・肥料・水やり・草取りの観点で学習カードにまとめた。

(2) 評価結果

サツマイモの育て方について調べたことを発表し合った後、学習カード3によって、以下のように評価した。

評価の 観 点	学習活動における 具体的な評価基準	評 価 基 準		
		A (3)	B (2)	C (1)
関心・意欲・ 態度	サツマイモの育て方について一人調べをしようとする。	18人	6人	2人

さしたサツマイモを大きく育てるためのポイントは、日光・肥料・水やり・草取りなどが考えられるが、多くの子がそのうちの3つ以上を書いてA評価を得た。

(3) 指導の改善と実施

サツマイモの育て方を家族に聞いてきた子は、どんな世話をするとういかに、発表することができた。本やインターネットで調べた子のなかには、調べた内容が理解しきれず、発

表することができなかつたり，観点別にまとめることができなかつた子もいた。そこで，BとC評価の子には，みんなが発表したことから，どんな世話をしていくとよいかを考えさせた。その後，学級の時間にこれからしていく世話について話し合つてまとめたところ，サツマイモを大きく育てようと意欲が高まつた。

学習活動2 育てているアサガオやオクラの育て方や世話の仕方を調べる。

(1) 指導・学習の過程

育てたい野菜の第2位のオクラも育てることになった。これと，テラスで一人一鉢栽培しているアサガオの世話の仕方を調べていくと，共通点や相違点があることに気付いた子がいた。そこで，前時のように世話をする観点を，日光・肥料・水やり・草取りとしてまとめさせた。

(2) 評価結果

アサガオやオクラの育て方や世話の仕方を，サツマイモと比較して話し合った後，学習カード4に書かせて評価した。

評価の観点	学習活動における具体的な評価基準	評価基準		
		A(3)	B(2)	C(1)
思考・表現	他の植物(アサガオやオクラ)とサツマイモとの育て方や世話の仕方の違いを調べることができる。	20人	7人	0人

A評価の子は，すべての観点で正しく比較することができたが，B評価の子は，水やりについて書いてない子が6人，肥料について書いてない子が1人だった。

(3) 指導の改善と実施

B評価の水やりについて書いてない子に個別に聞いてみると，6人ともアサガオやオクラは，サツマイモと違っていつも水やりが必要なことを理解していたが，このことをどのようにカードに書けばよいかわからず，書ききれていなかったことがわかつた。また，肥料について書いていない子は，「肥料はご飯のかわりなのに，サツマイモはご飯を食べなくても大きくなるのは不思議だ。」と，サツマイモを育てるうえであまり肥料が必要でないことにこだわりをもっていたためだということがわかつた。このことから，サツマイモとアサガオやオクラの育て方や世話の仕方の違いを絵や表にし整理した。また，畝を作るときに肥料を混ぜたことを思い出させ，苗さしときは肥料が必要だということを知らせた。

学習活動2 サツマイモの成長の様子を発表する。

(1) 指導・学習の過程

子どもたちは，サツマイモの苗にペットボトルで水をかけたり，サツマイモの蔓と草を見分けながら，マルチシートの間隙から生えてきた草を「サツマイモの栄養をとっちゃだめだよ。」と言いながらむしり取つたりして，世話を続けてきた。そのなかで，「蔓がす

ごく伸びたよ。」と、自分の背の高さと比べる子がいた。そこで、苗さしするときから、何がどれくらい成長したのかを確かめることにした。長さのものさしになるものを工夫して測る、葉の枚数を友だちと協力して数えるなどして記録したが、土の中にかくれた根は確かめることができなかつたので、袋で栽培している土を取り除いて見せることにした。そして、苗さしときと比べた成長の変化に気付かせるための観点を、根・蔓・葉の3つとした。

いつもは土の中にかくれて見えない根を初めて見せた。袋栽培していた袋を切り開き、中から白髭のような無数に伸びた根が見えたときには、子どもたちから歓声があがった。また、白髭の根の中から小指くらいの赤いサツマイモの赤ちゃんが見えたときにはまた感動の声があがった。

(2) 評価結果

苗さしときと比べてどのように成長したか、学習カード5に書かせて評価した。

評価の 観 点	学習活動における 具体的な評価基準	評 価 基 準		
		A (3)	B (2)	C (1)
気付き	サツマイモの成長に気付く。	19人	5人	2人

C評価の子も含めて全員が根の変化について書いていた。B評価の子は、根と葉か蔓について書いているが、どの子も根について詳しく書いていた。

(3) 指導の改善と実施

B・C評価の子は普段よく見えている茎や葉のことよりも根について学習カードに書く時間を費やして全部書ききれなかつた。授業後、葉や蔓について書き加えさせた。

サツマイモの成長を確信した子どもたちではあつたが、いくつかの問題点も出てきた。子どもたちの関心は、根が定着した後はあまり水かけを必要としないサツマイモから、花を付け始めたアサガオの方に向きがちになっていった。また、テラスに置かれたビニール袋栽培やプランター栽培でも十分観察ができるため、運動場を隔てた畑への足が遠のきがちになってきた。そこで、台風による塩害や冠水・日照りによる水不足・病気や害虫による被害などからサツマイモを守るためにも、世話や観察を継続しようと呼びかけた。

次時は、いよいよ子どもたちが心待ちにしているいも掘りである。

学習活動2 サツマイモを収穫し、自然に親しむ。

(1) 指導・学習の過程

プランターで育てているサツマイモが、土からイモの頭を出しているのを子どもたちが見つけた。その頭から想像するサツマイモの大きさは、スーパーで売っている物よりずいぶん大きそうである。そこで、畑のいもほりをする事になった。イモを掘るときどのようなことに気を付けて掘ったらよいかを子どもたちに考えさせたところ、「土の中のサツマイモを踏まないように畝も踏まない。」「蔓で遊



ぶから踏んづけないようにする。」というイモや蔓を大切に思う意見が出てきた。さっそく畑に行き、いもほりを始めた。土に親しませるために、苗さしのと様と同様に、道具を使わずに手でいもほりさせた。どの子も赤いイモが見えると、土を除く手の動きが速くなり、抜けたときは「やったあ。でっかいのがとれたよ。」と、自分の顔くらい大きなイモを持ち上げ喜んだ。

(2) 評価結果

サツマイモを収穫する様子を、行動観察3により評価した。

評価の 観 点	学習活動における 具体的な評価基準	評 価 基 準		
		A (3)	B (2)	C (1)
関心・意欲・ 態度	サツマイモを収穫しようとする。	16人	11人	0人

全員が手で土をよけてサツマイモを収穫することができた。A評価の子のなかには、サツマイモに傷がつかないように、イモを葉でくるんで箱の中に入れる子もいた。苗さしの際になかなか土にさわれなかった子も、友だちといっしょに土をよけてサツマイモを収穫することができた。

(3) 指導の改善と実施

B評価の子のなかには、さつまいもを掘るのをあわてたため、引っぱったイモが途中で折れてしまったり、土を除くとき勢いよくはねのけたため、土が飛びまわりの子にかけてしまった子もいた。イモの下の方まで土をよけるとよいことを助言し、友だちのことも考えて土をとばさないよう気を付けさせた。

次時は、サツマイモの収穫の際に刈り取った有効利用し、蔓を使った遊びを考えさせることにする。

学習活動3 サツマイモや蔓を使った遊びで楽しむ。
サツマイモの蔓でできる遊びを考えて遊ぶ。

(1) 指導・学習の過程

いも掘りのときに残しておいた蔓を使って遊ぶことにした。葉を取りさった蔓の長さを比べ合う子。蔓相撲も始まった。縄跳びを始める子。輪っばを作って輪投げを始める子たちもいた。教師が作った大きな輪は、電車ごっこに使うことになり、電車が何度も教室やテラスを行き来して、みんなで楽しく遊ぶことができた。

(2) 評価結果

サツマイモの蔓で遊ぶ様子を、行動観察4によって評価した。

評価の 観 点	学習活動における 具体的な評価基準	評 価 基 準		
		A (3)	B (2)	C (1)
気付き	サツマイモの蔓で楽しく遊ぶことができる。	27人	0人	0人

全員が電車ごっこをしたり，輪投げやなわとび，綱引きなどをして楽しむことができた。

(3) 指導の改善と実施

27人がA評価だったので，この楽しく遊ぶ姿を生かして，さらなる発展を模索した。いろいろな遊びのなかで，輪投げをするために作られた輪を見た子が，「これに飾りをつければリースになるよ。」と言ってサツマイモの葉を巻きつけたり，落ち葉をさしたりしてみんなに見せた。

これがきっかけとなって，次時はみんなでリースを作ることになった。

学習活動3	サツマイモの蔓や秋の自然物を使った飾りを考える。
-------	--------------------------

(1) 指導・学習の過程

前時の学習から，サツマイモの蔓を重ねて輪を作り，それに飾りをつけてリースを作ることに決まった。何を飾りにするか話し合うなかで，図工の時間に，粘土で校庭から拾ってきたドングリを使った怪獣を作ったことを思い出して，リースにもドングリや松ぼっくりなど，自然物を使いたいという意見が多く出された。そこで，秋の物をたくさんとりボンやビーズなどもいっしょに使うとよいことを助言して，絵に描かせた。

(2) 評価結果

秋の自然物を使ったリースの絵を学習カード6に描かせ，評価した。

評価の 観 点	学習活動における 具体的な評価基準	評 価 基 準		
		A (3)	B (2)	C (1)
思考・表現	サツマイモの蔓や秋の自然物を使った飾りを考えることができる。	23人	4人	0人

A評価の子は，ほとんど松かさやドングリを使い，イチヨウの葉やススキや稲穂などを考える子がいた。また，タカノツメや椿の実など，いろいろな秋の物に目を向けていた。

B評価の4人は，学校にあるドングリと松かさのみを秋の自然物の飾りとして考えていた。

(3) 指導の改善と実施

B評価の子に多くの秋の自然物に気付かせるために，自分が考えたリースの飾りの絵を発表し合った。そして，実際にリースを作る次時は，絵の通りでなく，秋の物をもっとたくさん使うとよいことを助言した。すると，「うちの庭の真っ赤な葉っぱをもってきていいですか。」「ヤツのでっかい葉っぱも使いたい。」などの声があがり，子どもたちの瞳の輝きが増した。

学習活動3	サツマイモの蔓や秋の自然物を使って，飾りを作る。
-------	--------------------------

(1) 指導・学習の過程

前時に描いた絵をもとにして，サツマイモの蔓をまいた輪に飾り付けをした。子どもた

ちは、柔らかだった蔓が固くなり、すっかり褐色に変色していることに驚いていた。

リボンやモールなどを巻きつけたり、ドングリや松笠に色をつけた物を着けたりして楽しく作った。ドングリは思ったより蔓に付きにくく、リボンに貼り付けるとよいことに気付いた子が、誇らしげに教えている姿が見られた。

(2) 評価結果

秋の自然物を使って飾りを作るなかで、行動観察5により評価した。

評価の 観 点	学習活動における 具体的な評価基準	評 価 基 準		
		A (3)	B (2)	C (1)
思考・表現	サツマイモの蔓や集めた秋の自然物を使って飾りを作ることができる。	25人	2人	0人

前時にA評価だった子は本時も全員A評価だった。そのなかには、6種類の自然物を使った子が2人いた。前時B評価だった4人のうち2人は4種類の自然物を使っていた。B評価の2人は 前時のように松かさとドングリだけだった。

(3) 指導の改善と実施

B評価の2人には銀杏やススキも使うよう助言した。また、ドングリや松かさに色をつけるとよいことを助言したら、ドングリを小動物に見立てて目を描いたりススキを尾にしたりして楽しんだ。

収穫したサツマイモは、なかよし教室においたので、常に子どもたちの目に触れていた。「先生、あのサツマイモどうするの。」という声が日増しに増えてきて、いよいよ次時から、調理して食べる段階へと進むことになった。

学習活動4 みんなでサツマイモを調理して食べる。
サツマイモの食べ方を考える。

(1) 指導・学習の過程

学習活動1の により、焼きいも大会をすることは決まっていた。しかし、サツマイモがたくさん採れたことから、もっと他にも料理を作って食べることに話が進んだ。そこで、みんなでできそうなサツマイモ料理を調べて決めることになった。全部で40種類くらい考えられたが、そのなかで比較的作り方が容易で人気の高かったのが、おにまんじゅう・茶巾しぼり・オレンジ煮だった。

(2) 評価結果

話し合いの後、作りたいサツマイモ料理を学習カード7に書かせ評価した。

評価の 観 点	学習活動における 具体的な評価基準	評 価 基 準		
		A (3)	B (2)	C (1)
関心・意欲・態度	サツマイモの食べ方を考えようとする。	27人	0人	0人

全員が3種類以上の料理名を書き、意欲が高まっていた。

(3) 指導の改善と実施

全員が望んでいる焼きいも大会を次時に行うことにして、他の料理は後日決めることにした。そして、焼きいもをするのに必要な落ち葉を全員で集めるため、放課ごとに校庭へ出かけた。また、どこで焼きいもを焼いたらよいか安全な場所を探したり、水をはっておくバケツや、燃えかすを埋めるための穴を掘るスコップなど、必要な道具もそろえたりして、準備を始めた。子どもたちは、こうして焼きいもを作る準備に目を輝かせて取り組み、「焼きいもにして食べよう」という気運は高まっていった。

学習活動 4	焼きいもを作り、味わう。
--------	--------------

(1) 指導・学習の過程

前時の学習以降、晴れた日はみんなで校庭に出て、全員で落ち葉を集め続けた。風当たりの弱い校庭の隅の方で、火がおきやすいように新聞紙をまるめた玉を敷き、その上に落ち葉を山のようにかぶせた。収穫したサツマイモは濡れた新聞紙をまき、アルミ箔で包んだ。新聞玉に火をつけてうちわで扇ぐと、ぱちぱち音をたてて落ち葉が燃えた。急いでイモを落ち葉の上に乗せたが、すぐに落ち葉が燃えつきてしまうため、集めておいた落ち葉をどんどん追加したり、校庭の小枝を走って集めに行ったりしてイモを焼きあげた。焼きいもを食べているとき「甘くておいしい。ほっぺたが落ちちゃうよ。」「焼きいも最高。苦労して疲れたけどおいしいね。」「お母さんにも食べさせてあげたいな。」など満足した感想を聞くことができた。そして、片づけもみんなで協力して行った。

(2) 評価結果

焼きいも大会をふり返り、楽しかったのはなぜなのか、わけもいっしょに学習カード 8 に書かせて評価した。

評価の観点	学習活動における具体的な評価基準	評価基準		
		A(3)	B(2)	C(1)
気付き	みんなで焼きいもを作る楽しさに気付く。	15人	10人	2人

全員のカードに、焼きいも大会は楽しかったことが書かれていた。その理由は、おいしく焼けたことと、みんなで作ったことであった。C評価の子は楽しかった事実のみ書かれていた。

(3) 指導の改善と実施

C評価の2人に個別に聞いてみると、「楽しかったわけはわからないけれど、焼きいも大会は楽しかった。」と答えた。そこで、理由が書かれている子の学習カードを見せ、自分と同じだと思えることを見つけさせた。2人ともおいしく焼けたことを楽しかった理由として気付くことができた。学級でふり返りをしたとき、次時はお母さんにも喜んでもらえるサツマイモ料理に挑戦することになった。

学習活動4 お母さんに喜んでもらえるサツマイモのアイデア料理を考える。

(1) 指導・学習の過程

学級の時間の話し合いで、お母さんに食べてもらう料理がおにまんじゅうと茶巾しぼりに決まった。試作料理を実際にお母さんたちに食べてもらった感想を聞いて、どのように工夫したらお母さんが喜んでくれるかを考えることになった。また、町の先生にもアドバイスをいただくことにした。

子どもたちは、ふわふわのたまご味のおにまんじゅう、校庭で拾ったシイの実をのせた甘くてかわいい茶巾しぼりを、しかし、お母さんが太らないようにあまり甘すぎないように考えて作った。お母さんたちには、試食した後、味・入れるもの・形など、もっと工夫するとよいことを発言してもらった。そして、町の先生からは、アイデア料理を紹介していただいた。

(2) 評価結果

アイデア料理にどんなことを工夫するともっとお母さんに喜んでもらえるか、お母さんたちや町の先生からのアドバイスをもとに考えたことを、学習カード9に書かせて評価した。

評価の 観 点	学習活動における 具体的な評価基準	評 価 基 準		
		A (3)	B (2)	C (1)
思考・表現	お母さんに喜んでもらえるようにサツマイモのアイデア料理を工夫することができる。	27人	0人	0人

全員が、味・入れるもの・形などの2つ以上の観点で工夫する内容が書かれていた。

(3) 指導の改善と実施

「たまご味だけじゃなくて、ココア味も作りたいな。」「もっとふわふわのおにまんじゅうにしたいな。」「紫イモを混ぜた茶巾しぼりにしたいな。」など、おにまんじゅうと茶巾しぼりを工夫したいという意見が出された。後日、学級の時間にどんな工夫をするかを話し合った結果、もっと甘くすることと、おにまんじゅうと茶巾しぼりの両方とも、抹茶味・ココア味・たまご味の3種類にして、たまご味には紫イモも入れることになった。そして、茶巾しぼりにはチョコチップをのせることにした。

学習活動4 アイデアサツマイモ料理の準備をする。

(1) 指導・学習の過程

全部で6種類のアイデアサツマイモ料理をつくることになったため、学級全体が6つの班に分かれ、それぞれの班が1つずつの料理に挑戦することになった。そして、班ごとに砂糖の量を今までより増やしたり、紫イモを混ぜる分量を考えたりした。また、必要な調理器具をお母さんに聞いて調べてくる子もいた。

(2) 評価結果

アイデアサツマイモ料理の材料や作り方について ,学習カード 10 に書かせて評価した。

評価の 観 点	学習活動における 具体的な評価基準	評 価 基 準		
		A (3)	B (2)	C (1)
思考・表現	アイデアサツマイモ料理の材 料を考えることができる。	23人	4人	0人

全員が料理の材料と手順について書かれており , B 評価の 4 人は , 材料の分量が書かれていなかった。

(3) 指導の改善と実施

B 評価の 4 人には , 前時に試作したレシピや , 学習カード 9 に記録した , 「小麦粉と砂糖は同じくらいの重さにすると , 甘くておいしいおにまんじゅうになる」「おいもをあまりつぶしすぎないで , つぶつぶを残しておく , 歯ごたえのあるおいしい茶巾しぼりになる。」などの , 町の先生やお母さんたちからいただいたアイデアをもとに , およその分量や調理のこつを考えさせた。さらに , 同じ班の子とも話し合わせた結果 , 分量を決めることができた。

次の活動として , 子どもたちが考えた調理法で , おにまんじゅうと茶巾しぼりを作ることにした。

学習活動 4	アイデアサツマイモ料理を作り , 試食する。
--------	------------------------

(1) 指導・学習の過程

安全な包丁の扱い方や , ガスの使い方を確認して , 6 つの班のそれぞれが , 前時に決めたアイデアサツマイモ料理のレシピに従って , 分量を確かめたり , 料理ができあがるまでに何度も味見をして確かめたりした。そこでは , 使った後の調理器具を手際よく片づける R 男や H 子などの姿も見られた。また , S 男はふわふわにふくらんだおにまんじゅうや , 色鮮やかな茶巾しぼりができて , 満足そうに試食していた。

(2) 評価結果

アイデアサツマイモ料理を調理する様子を見て , 行動観察 6 により評価した。

評価の 観 点	学習活動における 具体的な評価基準	評 価 基 準		
		A (3)	B (2)	C (1)
気付き	アイデアサツマイモ料理を包 丁やコンロの安全な使い方に 気をつけて作ろうとする。	19人	8人	0人

全員が , 包丁やコンロの安全な使い方に気をつけて料理をつくることができた。なかでも , 班の子と協力したり , 作業をなかよく分け合ったりして進めることができた A 評価の子が 19 人であった。

(3) 指導の改善と実施

調理をしているとき、作業の役割分担をしている班があった。これを取り上げて紹介し、みんなで協力してつくとよいことを助言した。これにより、子ども同士で包丁を使う子の場所を決めたり、鍋をコンロから下ろすとき、鍋を持っている子に近づかないなど安全面にも気をつけることにつながった。

できた料理を試食した結果、「おにまんじゅうが爆発しそうなくらいふわふわになったね。」「紫イモがすごくきれいだね。」などの声が聞こえた。どの班の料理もほぼ満足のいくものができたため、食のフェスティバルでお客さんに食べてもらいたいという気持ちが高まった。そこで、次時は、食のフェスティバルの発表計画を立てることにした。

学習活動5 食のフェスティバルでサツマイモについてみんなに知らせる。
フェスティバルの発表計画を立てる。

(1) 指導・学習の過程

食のフェスティバルで発表する内容を話し合わせると、おにまんじゅう・茶巾しぼりや焼きいものことがほとんどであった。しかし、「サツマイモで勉強したことの発表だから、料理のことだけじゃなくて、苗さししてお世話したことや、リースを作ったことも入れたらいいと思います。」というR子の発言をきっかけとして、栽培・遊びや飾り・料理の3つの視点で話し合うことになった。

(2) 評価結果

食のフェスティバルで発表する内容について、学習カード11により評価した。

評価の 観 点	学習活動における 具体的な評価基準	評 価 基 準		
		A (3)	B (2)	C (1)
思考・表現	食のフェスティバルで発表する内容を、考えることができる。	24人	3人	0人

発表する内容を、栽培・遊びや飾り・料理のそれぞれについて話し合わせたので、3つの視点すべてについて考えることができたA評価が24人、2つの視点について考えることができたB評価が3人であった。

(3) 指導の改善と実施

発表する内容を、栽培・遊びや飾り・料理の3つの視点で話し合っているなかで、「黒板に絵を描いて発表するとわかりやすいと思います。」「動作を入れると、楽しくなると思います。」などの具体的な発表の方法を入れた発言もあった。さらに、絵・収穫した芋・蔓のリース・アイデア料理などの実物を使って発表しようという意見も出された。そこで、まず学習の場面絵を描くことから準備を始めることに決まった。

学習活動5 フェスティバルで発表する。

(1) 指導・学習の過程

上級生や地域の人にわかりやすく伝えるためにどのようにしたらよいかを考えたとき、大きな声で早口にならないようにする・話す内容が絵と合うように絵を見せる・動作を着ける・姿勢をよくするなどが考えられた。全体を2つのグループに分け、これらを意識して練習を進めてきた。お互いのグループを見合わせ、意見を交換させることで、よりお客さんにわかりやすく伝わるよう工夫した練習をすることができた。そして、オリジナルサツマイモ料理のおにまんと茶巾を、お客さんに食べていただくことにした。



(2) 評価結果

食のフェスティバルで発表する様子を見て、行動観察7により評価した。

評価の 観 点	学習活動における 具体的な評価基準	評 価 基 準		
		A (3)	B (2)	C (1)
思考・表現	調べたことや活動を、上級生や地域の人にわかりやすく伝えることができる。	21人	6人	0人

サツマイモ料理や絵やサツマイモやリースなどを使って、学んだことを大きな声で発表することが全員できた。さらに、ことばに抑揚や動作をつけて、表情豊かに発表できたA評価が21人であった。

(3) 指導の改善と実施

食のフェスティバル当日は、教室に入りきれないくらいの大勢の上級生や地域の人に来ていただいた。S男は緊張で顔がこわばり、「あれ、何だったっけ。」と、自分の発表することばを忘れてしまった。そこで、みんなでカバーし合えばよいことを助言すると、隣のY子が小さな声で教えてあげたことで、がんばって大きな声で発表することができた。このことで会場の雰囲気や和み、それ以後、子どもたちはにこにこして発表したり、試食のおにまんじゅうと茶巾しばりを勧めることができた。発表が終わった後、お客さんたちから拍手をもらったり、上級生からほめてもらったりして嬉しそうにしていた。

学習活動6 これまでの活動をふり返り、学習のまとめをする。 今までの活動のふり返りをする。

(1) 指導・学習の過程

食のフェスティバルで発表したことの感想を、上級生や地域の人たちがたくさん書いてくれた。みんなで読んでみると、ほとんどが発表する態度や声の大きさをほめてくれたり、おにまんと茶巾がおいしかったことだった。自分たちの学習が認められ、満足そうにしていた。そこで、学習のまとめとして、ふり返りをすることにした。ここでも食のフェスティバルのときのように、栽培・遊びや飾り・料理の3つの視点に、食のフェスティバルも

入れて4つの視点でまとめるとよいと助言した。学習カードはあらかじめ4つの視点に分けた表を用意した。これまでの学習カードを見て思い出しながら、したことや感想を入れてまとめた。

(2) 評価結果

これまでの学習のふり返りについて、学習カード12により評価した。

評価の 観 点	学習活動における 具体的な評価基準	評 価 基 準		
		A (3)	B (2)	C (1)
気付き	これまでの学習のふり返り をすることができる。	21人	5人	0人

栽培・遊びや飾り・料理・食のフェスティバルのすべての視点について書いているA評価が21人で、2つ～3つについて書いているB評価が5人であった。

(3) 指導の改善と実施

B評価の5人に個別に聞いてみると、遊びや飾り・料理・食のフェスティバルについては書けているが、栽培についてのふり返りが書けていなかった。そこで、教室に掲示してある学習のあゆみの写真や、学習カードの2～4を見せて当時のことを思い出させた。5人とも難しかった苗のさしかたを町の先生に教えてもらってうまくできたことや、ためしばかりで根っこが赤くなってびっくりしたことなどを思い出し、学習カードに書いた。

次時は、ふり返ったことをもとに、学習のあゆみの最後として、サツマイモ新聞を作ることになった。

学習活動 6	サツマイモ新聞を作る。
--------	-------------

(1) 指導・学習の過程

前時に学習のまとめをした学習カード12をもとに、紙面を区切って、栽培でがんばったことや食のフェスティバルで大勢のお客さんの前でも大きな声で発表できたことなど書きたい内容ごとに書くことよいことを助言した。また、本物の新聞は写真や絵がたくさん使われていることに気付いたT男やS子のことを紹介した。このことから、この新聞にも生かそうとレイアウトを考え始めた。さらに、文字の大きさや色も、見る人に伝わりやすいように工夫を始めた。

(2) 評価結果

学習のまとめについて、サツマイモ新聞により評価した。

評価の 観 点	学習活動における 具体的な評価基準	評 価 基 準		
		A (3)	B (2)	C (1)
思考・表現	サツマイモ新聞を作ることが できる。	23人	4人	0人

栽培・遊びや飾り・料理・食のフェスティバルのなかで3つ以上の視点で書いているA評価が23人で、2つ書いているB評価が4人であった。

(3) 指導の改善と実施

文の内容に合った写真をさがすとき，自分が写っていない写真しかなくて困ることがたびたびあった。「写真だけじゃなくて，絵や図をうまく使うと，楽しい新聞になるよ。」と助言したところ，読みやすく楽しい紙面にするための工夫が始まった。また，文がほとんどなく，写真集のように考えた T 男には，本物の新聞を見せ，文字と写真の組み合わせ方を考えさせた。

記事の内容ごとに色分けして書いたものや，新聞紙をサツマイモの形にしたものなど，工夫した新聞ができあがった。T 男は，自分が主人公になった物語風な新聞を作った。また，A 子はサツマイモが主人公になって変化していく様子を書いた新聞を作った。できあがった新聞をうなずきながら読んだり，笑いながら読んだりする姿が見られた。子どもたちの目は生き生きと輝いていた。

2 - 2 自己学習力の向上に向けた評価の工夫

(1) 第 1 レベルの工夫

学習活動 3 - では，サツマイモの蔓や秋の自然物を使った飾りを考える活動を設定した。1 年生の発達段階を考えて，評価基準を全体の場で説明した後，考える時間とした。以下がそのとき子どもに示した評価基準である。

活動のめあて	ふ り か え り
サツマイモの蔓や秋の自然物を使った飾りを考えよう。	3 : サツマイモの蔓や，松かさ・ドングリ・木の葉などの秋の自然物を 3 種類以上使って，どのような飾りを作るかが書けた。
	2 : サツマイモの蔓や，松かさ・ドングリ・木の葉などの秋の自然物を 2 種類以上使って，どのような飾りを作るかが書けた。
	1 : サツマイモの蔓や，松かさ・ドングリ・木の葉などの秋の自然物を 1 種類以上使って，どのような飾りを作るかが書けた。

どのような飾りを作るか，絵で描いた後，評価基準についての自己評価をさせた。自己評価させる場面でも，子どもの実態を考慮し，基準の項目を一つ一つ説明しながら自己評価を行ったこともあり，子どもたちは迷うことなく自己評価することができた。

3 : サツマイモの蔓や，松かさ・ドングリ・木の葉などの秋の自然物を 3 種類以上使って，どのような飾りを作るかが書けた。..... 2 3 人
2 : サツマイモの蔓や，松かさ・ドングリ・木の葉などの秋の自然物を 2 種類以上使って，どのような飾りを作るかが書けた。..... 4 人
1 : サツマイモの蔓や，松かさ・ドングリ・木の葉などの秋の自然物を 1 種類以上使って，どのような飾りを作るかが書けた。..... 0 人

27 人中 23 人が，松かさ・ドングリ・木の葉などの秋の自然物を 3 種類以上を使った飾りを考えることができたという結果であった。これは，評価基準を提示したことで子どもたちに明確な目標をもたせることができ，意欲が高まったことの表れであると感じた。さらに，その意欲から，学校にある秋の自然物だけでなく，家の近くの公園や畑などで見つけた自然物も持ってきて作ることに繋がったと考えられる。

(2) 第2レベルの工夫

自分たちが大切に育てたサツマイモを料理して食べようと、焼きいも大会をした。みんなで協力して、楽しくおいしく食べたことから、お母さんにも食べさせてあげたいという願いをもった。お母さんのことを考えて、「お母さんに喜んでもらえるようにサツマイモのアイデア料理を工夫しよう」というめあて(評価規準)に決まった。以下がそのときの評価基準である。

活動のめあて	ふりかえり
お母さんに喜んでもらえるサツマイモのアイデア料理を考えよう。	3：お母さんに喜んでもらえるようなサツマイモ料理の工夫を、味・入れるもの・形などの視点で2つ以上書けた。
	2：お母さんに喜んでもらえるようなサツマイモ料理の工夫を、味・入れるもの・形などの視点で1つ書けた。
	1：お母さんに喜んでもらえるようなサツマイモ料理を書けた。

そして、子どもたちは、お母さんを学校に来てもらって意見をきこうという活動につながっていった。子どもたちの自己評価の結果は以下のである。

3：お母さんに喜んでもらえるようなサツマイモ料理の工夫を、味・入れるもの・形などの視点で2つ以上書けた。 27人
2：お母さんに喜んでもらえるようなサツマイモ料理の工夫を、味・入れるもの・形などの視点で1つ書けた。 0人
1：お母さんに喜んでもらえるようなサツマイモ料理を書けた。 0人

お母さんたちに自分たちで作ったおにまんじゅうと茶巾しぼりを試食してもらった。その時の意見や感想から、子どもたちは料理の材料や分量を考え始めた。これが「アイデアサツマイモ料理の材料を考えることができる」というめあて(評価規準)につながった。そして、「材料とそれがどのくらいいるかを決めて、作り方もちゃんとしておこう。」(評価基準)と、具体的な活動をめざすようになった。

活動のめあて	ふりかえり
アイデアサツマイモ料理の材料を考えよう。	3：アイデアサツマイモ料理の材料や分量や手順を書けた。
	2：アイデアサツマイモ料理の材料や分量や手順のうち2つ書けた。
	1：アイデアサツマイモ料理の材料や分量や手順のいずれかを書けた。

こうして、子どもたちは評価規準・基準を自分たちの手で作り上げ、自己評価した結果は以下のである。

3：アイデアサツマイモ料理の材料や分量や手順を書けた。 23人
2：アイデアサツマイモ料理の材料や分量や手順のうち2つ書けた。 4人
1：アイデアサツマイモ料理の材料や分量や手順のいずれかを書けた。 0人

子どもたちは、評価基準や基準を考えることも楽しんでいった。次時への活動の意欲につながることを感じた。

2 - 3 外部への説明責任に向けた評価の工夫

(1) 単元の総括的評価結果

本単元における観点別の総括的評価(=評定)は、「関心・意欲・態度」については学習活動1 - , 1 - , 2 - , 2 - , 2 - , 4 - の総和で、「思考・表現」については学習活動1 - , 2 - , 3 - , 3 - , 4 - , 4 - , 5 - , 5 - , 6 - の総和で、「気付き」については学習活動2 - , 3 - , 4 - , 4 - , 6 - の総和で行うことにした。その結果は以下の通りである。

関心・意欲・態度

単元における個人ごとの総括的評価結果を基に見ると、Aは19人、Bは7人、Cは1人であった。B以上は合計26人となる。このため、クラス全体としては96%以上が目標を達成したと考えられる。したがって、単元を通して、関心・意欲・態度の育成は目標を達成したと判断できる。

思考・表現

単元における個人ごとの総括的評価結果を基に見ると、Aは12人、Bは14人、Cは1人であった。B以上は合計26人となる。このためクラス全体としては96%以上が目標を達成したと考えられる。したがって、単元を通して、思考・表現の育成は目標を達成したと判断できる。

気付き

単元における個人ごとの総括的評価結果を基に見ると、Aは9人、Bは16人、Cは2人であった。B以上は合計25人となる。このため、クラス全体としては93%以上が目標を達成したと考えられる。したがって、単元を通して、気付きの育成は目標を達成したと判断できる。

(2) 単元における個人内評価結果

次に、A児、B児の2名を事例にしながら、個人内評価の特質について検討することにする。そのため、まず2人の児童の<個人評価結果表>を示すと、次のようである。

個人評価結果表

		学習活動1		学習活動2				学習活動3			学習活動4				学習活動5		学習活動6		評定	
A児	関心意欲態度	<u>3</u>	<u>3</u>	<u>1</u>	<u>1</u>			<u>3</u>			<u>3</u>								A	
	思考・表現			<u>2</u>			<u>3</u>			<u>2</u>	<u>3</u>			<u>3</u>	<u>2</u>		<u>2</u>	<u>3</u>	<u>2</u>	B
	気付き						<u>2</u>		<u>3</u>				<u>2</u>			<u>2</u>		<u>2</u>		C
B児	関心意欲態度	<u>3</u>	<u>3</u>		<u>3</u>	<u>2</u>			<u>2</u>			<u>3</u>								A
	思考・表現			<u>3</u>			<u>3</u>			<u>3</u>	<u>3</u>			<u>3</u>	<u>3</u>		<u>3</u>	<u>3</u>	<u>3</u>	A
	気付き						<u>3</u>		<u>3</u>			<u>3</u>			<u>3</u>		<u>3</u>	<u>3</u>		A

(注) 総括的評価(評定)に用いた評価結果には下線を付した。評定は総括的評価結果に基づき、Aは80%以上相当、Bは60~79%相当、Cは59%以下相当の達成状況

を示している。

観点間経時的評価

A児は、学習活動1において、「関心・意欲・態度」「思考・表現」において、ほぼ3という構造的発達特質が見られるが、学習活動2において、「思考・表現」が3を維持しているものの、「関心・意欲・態度」は1へ下降するという特質が見られる。学習活動3・4では、「関心・意欲・態度」は再び3に上昇するが、「思考・表現」「気付き」はほぼ2に落ち着いている。そして、「思考・表現」「気付き」は学習活動5・6においてもほぼ2のままを維持し、学習を終えている。

B児は、学習活動1では、「関心・意欲・態度」「思考・表現」ともにすべて3という高い水準を維持しているが、学習活動2においては、「思考・表現」「気付き」は3を維持しているものの、「関心・意欲・態度」では2へ下降するという構造特質が見られる。学習活動3・4、さらに学習活動5・6では、3観点ともに、すべて3という高い水準を維持したまま推移し、学習を終えている。

観点内経時的評価

「関心・意欲・態度」については、A児は、3 3 1 1 3 3というように、学習の前半では3という高い水準を維持している。しかし、学習のなかごろでは1へ下降するものの、学習の後半では再び3へ上昇し、そのまま学習を終えている。評価はBである。B児は、3 3 3 2 2 3というように、3から2へとやや下降したが、その後再び3へと上昇している。評価はAであった。

「思考・表現」については、A児は、2 3 2 3 3 2 2 3 2というように、2 3や3 2などの推移があり、学習の終わりには3から2へ下降している。評価はBであった。B児は、3 3 3 3 3 3 3 3 3というように、高い水準のまま推移している。評価はAであった。

「気付き」については、A児は、1 3 2 2 2というように、学習のはじめには1であったが、その後3へと上昇している。しかし、2へ下降し、そのまま学習を終えている。評価はCであった。B児は、3 3 3 3 3というように、高い水準のまま推移している。評価はAであった。